

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401608		
法人名	有限会社 八神		
事業所名	グループホーム「あまざり」		
所在地	長崎県南島原市深江町丙357番地		
自己評価作成日	令和4年7月9日	評価結果市町村受理日	令和4年10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和4年9月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「毎日が笑顔」をモットーに、旬の食材をおいしく食べる。コロナ渦の中で外出が難しいので、畑の手入れやホーム周辺の草取りを職員と一緒に出来る事を行っています。家族の面会時間を制限せず、残された人生に家族が関われる時間を支援したいと思います。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは東に有明海とその先の熊本を望み、西には普賢岳を背にした静かな場所に立地している。近くに住む家族や住民の訪問も多く、旬の野菜の差し入れや、釣った新鮮な魚を調理するなど、施設長を中心に手作りの食事を提供し、入居者の喜びに繋がっている。コロナ禍が継続しているため、玄関には新型コロナウイルス感染対策マニュアルを掲示して感染症への対応の周知に努めると共に、遠方の家族にはPCR検査の実施を促し、できるだけホームで面会ができるよう配慮している。頻りに訪問できない家族にはLINEアプリを活用して家族と会話したり、入居者の写真や動画を送付したり、また、定期的に入居者や行事の様子を載せたホームだより発行して家族の楽しみに繋げている。季節の変わり目には衣替えなどを家族に協力してもらい、入居者との関わりの継続を支援している。家庭的な雰囲気の中、日常生活の援助と共にホームの廊下で歩行のリハビリを取り入れたり、家族や近所の方が気軽に立ち寄れるよう声を掛けるなど、これからは地域の認知症ケアを行うホームとして期待が持てる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

グループホーム「あまぎり」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「毎日が笑顔」をモットーに利用者様、家族、職員の笑顔を多く見られるように心がけています	理念である「毎日が笑顔」をホームリビングの壁に掲示し、職員は理念を意識しながら入居者へ美味しい食事の提供と楽しい会話ができている。家族が訪問した際には互いに気兼ねなく笑顔で思いを伝え合うことで、家族の安心感に繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所のスーパーへ買い物に行ったり、近隣の方が遊びに来て下さいます	コロナ禍によりこれまで行ってきた地域の学校との交流やボランティアの受け入れ等は自粛している。近所の地域住民がホームの庭先で咲いている花を見に立ち寄ったり、家族が野菜や果物などを差し入れることがある。毎年、近隣農家の方から収穫した野菜をいただいたり、玄米を手ごろな価格で購入するなど地域との付き合いを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の介護相談をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況や日常の様子、家族の要望、行事、入退所報告や研修会の紹介、問題解決への話し合いをしている	運営推進会議は手指消毒・体温測定・マスク着用等の感染防止策を講じ、可能な限り対面での会議を実施している。今年度は運営推進会議に合わせ、十分な距離を確保した上で「訪問コンサート」を実施し、会議のメンバーと一緒に入居者が好むような歌を披露し楽しまれている。書面会議の際は家族へ意見や感想を聞くようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課に毎月の書類を提出し、わからないことを相談し、アドバイスを頂いています。	広域市町村圏組合や市の福祉課担当者と情報交換し、各種申請時には必要に応じて入居者の保険証やケアプランの写しなど送付し、不明な点が生じた際は問い合わせしている。生活保護受給者に関する対応や、感染症への対応等について助言を得るなど行政と協力関係を築き取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束ゼロ宣言しています。	「身体拘束廃止に関する指針」を整備し、ホーム全体で身体拘束をしないケアの実践に努めている。ホームでの身体拘束に関する取り組み状況は運営推進会議にも報告し議事録に残している。職員が気づいた時点でヒアリハットをすぐに記録できるようリビングに記録簿を置き、職員間で共有し振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護拒否や暴力行為がある場合には職員交代や時間を置いて声掛けしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援なし		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明し同意してもらう。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に話し、意見をきいています。また、遠方の家族にはSNS等を利用し意見を聞いています。	職員は入居者へ日頃より笑顔で接し、入居者との会話の中から要望等を聞き取っている。家族が訪問した際にはコロナ感染予防に努めながら家族の意見や要望を聞いている。遠方の家族にはLINE(アプリ)やテレビ電話を活用して入居者と面会したり家族の意見や要望を聞いている。季節の変わり目には衣替えなどを家族に協力してもらい、入居者との関わりの継続を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングで利用者様や家族の要望を報告、ケアについて意見交換し介護方法を統一する。	管理者は職員よりあらかじめ希望休を聞いて勤務表を作成し、有給休暇の取得や突然の欠勤にも柔軟に対応している。ミーティングを通じて職員間で意見交換を行うと共に、施設長は職員と日頃からコミュニケーションを図り、職員の提案やアイデアをホームの運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望を記入してもらう。労務士と話し合いながら給与水準を設定しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県GH連絡協議会、島原半島GH連絡協議会、南島原GH連絡協議会、地域の病院が開催している研修会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	空所状況の共有や色々な相談をしたり、また受けたりしています。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本情報を作成し、本人・家族と話し合い了解の元サービスを提供する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所されて不安を感じられる場合には毎日でも、面会に来ていただく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、医療機関、居宅からの情報提供と家族の希望や本人の様子を見ながら作成する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を生かし、見守り、声掛けを行い、出来ない部分を支援させていただく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やTELにて近況報告し、衣類等の補充や、困っていることなど、家族からの相談を気軽に受けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昼食、夕食の食事介助に毎日来ておられる家族を受け入れています。	コロナ禍により友人や知人といった馴染みの方のホームへの来所は減少している。家族や馴染みの方とは電話やLINEを活用して会話ができるよう取り組んでいる。最近まで行きつけの美容室に行く方もいた。コロナ禍ではあるが、感染対策を講じながら、家族の協力を得たり、天気が良い日には庭の草とりに馴染みの方が訪れるなど、可能な限り馴染みの人や場と関係を継続できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファールでおしゃべりをされたり、一緒にテーブルで作業することで会話を楽しまれています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族から気軽に相談される		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中で、思いや、悩みを知り、その方が笑顔で暮らせるように支援する。	職員は日頃の入居者との会話や支援の中から思いの把握に努めている。家族が面会に来た際には入居者の様子を伝え、意思表示が困難な方には家族より本人が希望することを聞き取り、その方の思いを汲み取るよう努め、入居者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅から入所された方の暮らしぶりは把握できないことが多いが日々の暮らしの中と家族との会話の中で把握する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや夜間、日常の会話の中で把握する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を聞き日々の様子などの検討会を開き、それに基づいて計画を作成する。	家族が料金の支払いと入居者の面会に来所した際に、介護計画の内容を説明している。介護計画は家族が分かりやすいように説明し、家族より同意を得ている。新たに入居した方はホームの生活に慣れるまでは短期間に介護計画を見直し、その後は半年毎で見直している。また、本人の状態変化が生じた際も適宜見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、ケアプランチェック表、看護記録を活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の希望、本人の特変時に素早く対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方が野菜や魚を持ってきてくれます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族へ受診前後の報告を行う。また、家族からの相談・希望などを主治医に伝え、アドバイスをもらい、家族に伝える。	入居前からのかかりつけ医への受診を継続でき、また、ホームの協力医に変更することもできる。協力医がホーム近隣にあり、医療的な措置が必要な方にも即座に対応できるよう取り組んでいる。家族が受診に同行する際は必要に応じてホーム所有の福祉車両を貸すなど柔軟に対応している。受診後は家族へ電話やLINEを通じて本人の状態を報告している。週2回、訪問歯科を利用し、義歯の調整や残存歯の手入れを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師へ情報を伝え、適切な看護、受診が受けられるよう連携を図る		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報提供、介護サマリーを提供する		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要な書類を作成し、家族・主治医・看護師等と連携し指針作成、家族への説明・同意をとる。	入居時に家族へ看取りに関する「意見確認書」を用いてホームで行う看取りの支援の説明を行い同意を得ている。看取りの際は近隣の協力医と連携し、家族等と話し合いながら今後の方針を決定し支援している。家族から本人の居室でその方の最期を看取ることができたと感謝の言葉を述べられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には各自何をするのか状況に応じて行動できる様にしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	近隣住民や近くの家族の方の協力は得られるように話をしています。	消防訓練は春と秋の火災予防週間に合わせて年2回、夜間想定訓練を実施している。コロナ禍もあり、訓練に近隣住民が参加することはないが、近くに住む元消防署員や看護師の方など数人の方がいつでも協力すると述べられており、地域との協力が得られる関係を構築している。	ホームでは自然災害に関するマニュアルを新しく整備しており、職員間でマニュアルの読み合わせや、ハザードマップの確認と共に、実際に避難場所へ車いすで移動する際の段差など避難ルートでの危険個所の確認やかかる時間の把握、BCP(業務継続計画)の運用等も含め、今後、具体的に取り組むことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合わせた声掛けをしています。また、敬意を払った声掛けや対応をしています。	入居者支援の手順を文書化し、職員はその方に合わせた方言を交えた言葉遣いで入居者へ声を掛けている。ホームに家族の訪問も多く、施設長は家族とも忌憚のない会話をしながら、その場の雰囲気にも配慮し対応している。入居者一人ひとりの思いや希望の把握に努め、入居者本人の羞恥心に配慮した言葉かけに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく言葉を発してもらい、意思を伝えてもらうよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や外に出たいとの訴えに、職員と一緒に外出しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合う洋服を着ていただくように声掛けをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に何を食べたいかを聞き、なるべく希望に添えるようにしています。	近隣住民からいただいた野菜や、管理者が釣ってきた魚を施設長が調理するなど新鮮で旬の食事を提供している。入居者が食べやすい大きさにきざんだり、介護用の食器を利用するなど配慮している。誕生会などの行事には特別食を準備し、LINEに動画を載せて家族に知らせたり、ホームだよりにもその様子を載せて家族へ送付している。水分と電解質を補給できるマスカット味のゼリー飲料を購入するなど、水分や栄養摂取に留意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500ml以上飲用して頂いています。ムセ込みがある方にはとろみをつけたり、ゼリーに対応している。アレルギーがある方には代替え食にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は磨きをして頂き、月に2度訪問歯科を受診し口腔内の状態を見てもらっています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを24時間シートにて把握している。頻尿の方は主治医と連携を取り薬の処方をしてもらう。また、なるべくトイレにて排泄をして頂ける様に声掛けし誘導しています。	本人の介護度や状態に応じて、布パンツ・オムツ・パットを使用している。職員は排泄チェック表をもとに本人の排泄リズムを把握してトイレへ誘導し、排泄の自立に向けた対応に努めている。オムツ・パットを減らす対応に心がけ、家族の経済的負担の軽減に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量と野菜類の摂取に気をつけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきの入浴を基本とし、気の合う方と入浴されています。	週2回の入浴を基本としている。また、必要に応じて足浴や清拭にも対応している。気の合う入居者同士と一緒に入浴を楽しむ事もあり、職員が見守りにて支援している。柚子湯・菖蒲湯のほか、ザボン湯・みかん湯・バラ湯など入浴を楽しめるよう取り組み、その様子を動画や写真で家族へ送り家族の喜びに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間クーラーをつけたり、汗をかかれた方はシャワー浴をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を把握し確薬をしています。また、薬剤師や医師と連携をとっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	訪問コンサートに参加したり、歌謡曲をテレビで流したりしています。おやつには食べたいものを選んでもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気がいい日はドライブへ出かけたり、買い物へ行っています。	現在、コロナ禍により遠方への外出は自粛している。尚、感染対策を講じ、近所のスーパーで買い物したり、ホームの福祉車両2台を使用し、人ごみを避けながら花見を行うことができている。花見の様子はLINEやたよりを通じて家族にも伝えている。外気浴を兼ねホームの庭の草とりをするなど本人の気分転換に繋げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物やみこしが来た時のお賽銭など本人の要望に応じて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだり、希望される家族にはLINEで動画や写真を送ります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、リビング、洗面所に季節の花を置いたり、娯楽室では日向ぼっこをさせています。	玄関入り口付近の掲示板には「新型コロナウイルス感染症」・「濃厚接触者に対するケア実践の留意点」・「感染症に向けた取り組み」を掲示して職員や来訪者にも周知し、感染症に留意している。廊下の要所にはソファを設置し、入居者同士が談話したりゆっくりと寛ぐなど自由に過ごされている。娯楽室(畳の間)では入居者が洗濯物をたたむなど生活感のある空間づくりができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置き気の合う人と座ったり出来るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、家族・本人・職員で話し合いながら自分の居場所を作ってもらいます。	居室へ持ち込みの制限はなく、家族に入居者本人の使い慣れた物を持ち込むよう促している。トイレ付きの居室とトイレがない居室があり、入居者の状態に応じた居室を用意している。居室の温度や換気に注意を払い、入居者が居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケアプランに合わせ手すりをつけたり、エアマット、ポータブルトイレ、畳、マットレスを使用しています。		